

いわき版「骨太の方針」発表

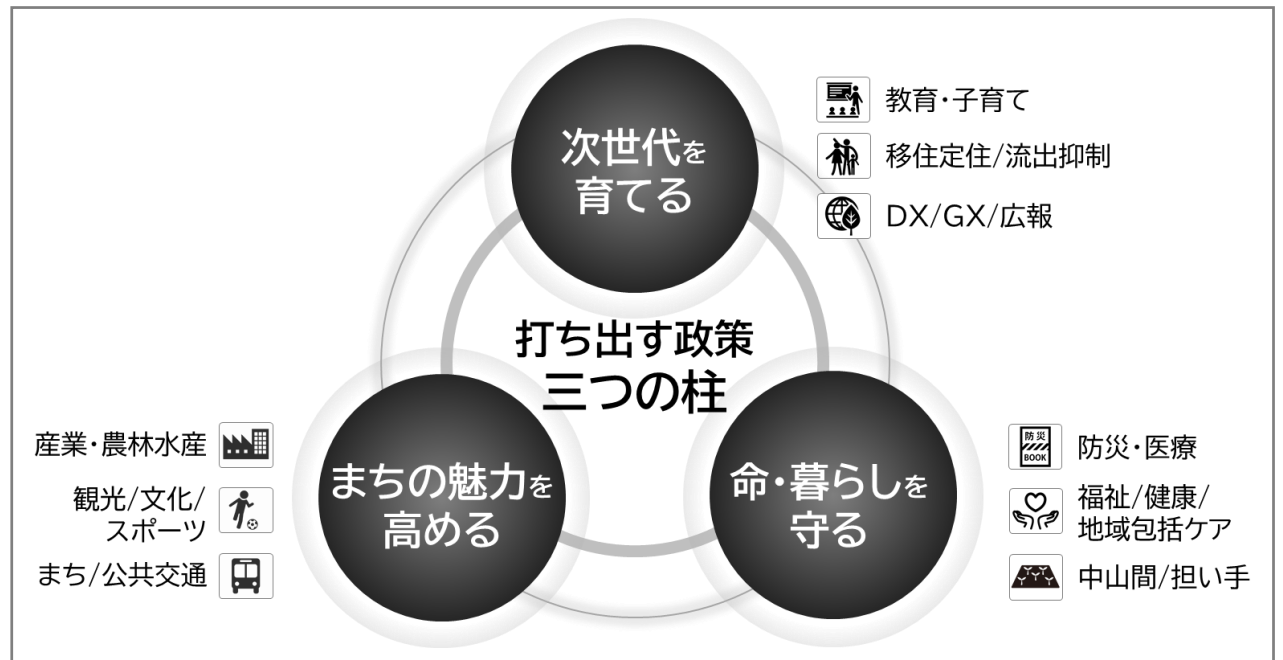
打ち出す政策、支える改革 始まる

いわき市の内田市長は、就任1年の節目にあたり、いわき版「骨太の方針」を発表した。この方針は、次年度の政策などをまとめたもので、昨年度までは年明けの年頭所感や当初予算案で公表していたものだ。

内田市長は会見で、「前例に捉われず、より早い段階で今後の政策の方向性を市民に打ち出した。同時に、その政策を支えるための構造改革の取組みも併せて示したところ。これから次年度に向けた予算編成や組織見直し、職員人事が本格化するが、この方針をすべての基盤として進めていく。」との考えを示した。

骨太の方針は、「打ち出す政策 三つの柱」と「支える改革 五本の矢」で構成されている。とりまとめにあたり市長は、「この1年間、現場主義で多くの市民の皆さんと膝詰めで意見交換を重ねてきた。その成果がこの骨太の方針。最終稿ではなく、これからも、いろいろな方々の声を吸収して、いいものに作り変えていきたい。」と締めくくった。

打ち出す政策「三つの柱」



1 次世代を育てる

学力向上で人づくり日本一を目指す教育施策や子どもを主眼に置いた子育て施策、人口流出への対応としての移住定住・流出抑制施策、スマートシティ実現に向けたDX施策、脱炭素社会実現に向けたGX施策、広報施策を重点化。

- 学力向上チームの訪問体制強化
- ヤングケアラー・子ども食堂への支援充実
- 福島国際研究教育機構との連携体制 など

2 命・暮らしを守る

地域防災力向上を進める防災施策、医師確保に重点を置いた医療施策、地域共生社会や健康長寿の実現を目指す福祉関連施策、人口減少が著しい中山間地域での持続可能な生活を支える中山間地域施策を重点化。

- 登録防災士の配置・要支援者把握
- 医師不足解消への道筋提示
- 買い物・公共交通・中山間支援 など

3 まちの魅力を高める

スタートアップを後押しする産業施策、稼げる一次産業を推進する農林水産施策、観光・文化・スポーツを通じた市の魅力向上施策、いわき駅周辺へ都市機能集積や市街地再生など、まちづくりや公共交通施策を重点化。

- スタートアップ、業態転換支援
- 農林水産業のブランド化、復興
- 若者・いわきFC・本市関係文化人の発信 など

支える改革「五本の矢」

1 市民・来庁者の利便性を向上します

行政手続きや施設予約をオンライン化・キャッシュレス化し、市民の利便性を向上させることがねらい。同時に、お出かけ市役所を充実し、デジタルに不慣れな市民にもしっかり対応していく。

2 生産性を向上し、市民の満足感を高めます

デジタルの力を活用し、仕事を効率化することによって生み出されるマンパワーと時間を、市民サービスに再配分し、市民サービスを向上させ、満足感を高めることがねらい。

3 ちょうどいい施設とインフラを目指します

いわき市の公共施設は、他の中核市と比べ保有面積が多い。このままでは維持していくのが難しいため、人口減少を的確に捉え、身の丈に合った施設数・面積に最適化することがねらい。



1 行かない！書かない！待たない！市役所



2 しごとを徹底的に効率化



3 サービス・インフラの最適化に挑戦



4 成果重視と見える化を実現



5 職員づくりも日本一

4 行財政マネジメントの仕組みを強化します

毎年、成果指標に基づく事業評価を行うもの。効果がない取組みは迷わず廃止し、効果を実証された取組みに再配分することで、市民サービスを向上させることがねらい。

5 職員の意欲とやりがいを最大化します

人材育成方針や人事評価制度を見直すもの。市民サービスを向上するためには、市職員が最高のパフォーマンスを発揮することが必要で、職員個人や組織の力を高めることがねらい。